

《第1章》

防犯教室の参考事例

人形劇で楽しく学ぶ事例

(埼玉県内保育園)

対象: 幼児(年中・年長) 約40名

指導: 埼玉県警察本部 生活安全企画課 防犯指導班「ひまわり」2名

使った教材や道具: パネル、人形劇用の台や暗幕、動物のパペット、カセットデッキ、ロールプレイ用の車(手作り)など



0:00

《導入》指導者の挨拶。

「今日、おまわりさんは、みんなの“いのち”を守るためのお話をしに来ました」

《いのちはいくつある?》子どもたちに「いのち」について問いかけ、その大切さを気づかせる (p.28 参照)。

《大きくなったら何になる?》パネルを見せながら生き物が成長する様子を想像。成長することのすばらしさやうれしさを感じさせる (p.29 参照)。



0:10

《展開・人形劇「ワン太郎くんとはなちゃん」》

イヌのワン太郎くんとはなちゃんが公園に遊びに行き……「3つのお約束」(p.30、31 参照)を学ぶストーリー。

①一人にならない ②(知らない人には)ついていかない。 ③「いや、助けて」と大きな声で助けを求める。

最後に、パネルを見ながらワン太郎くんといっしょにおさらい。



0:30

《展開・実際にやってみよう》

指導者の一人が不審者に扮し、代表の子ども2人がロールプレイ。

- ・だれかに声をかけられたらどうする?
- ・車に乗っている人から声をかけられたらどうする?



0:35

《まとめ》みんなで歌を歌う。

指導者「今日のお話は、わかったかな? みんなよく覚えておいてくださいね」

0:40

終了

指導上のくふう・ポイント

人形劇で不審者(悪者)役のイヌが出てくるだけで怖がる子どもいたが、すぐに保育士がそばについたり、だっこするなどの配慮があった。

最後に子どもの好きな歌を歌うことで、それまで怖がっていた子どもを含め、みんなが楽しい雰囲気ですべて防犯教室を終えることができた。



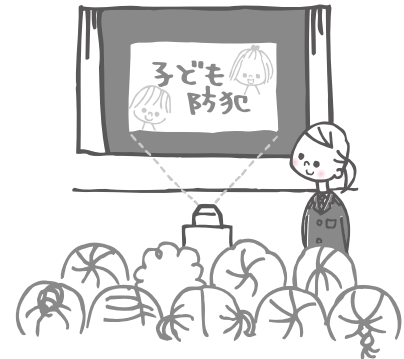
映像教材とゲームで楽しく&ロールプレイを中心にした事例

(千葉県内小学校)

対象: 1・2・3年生 約90名+保護者

指導: 千葉県警察 市川警察署・生活安全課少年係 2名

使った教材や道具: パワーポイント、独自の教材(ソフト)作成、
段ボールを使ったロールプレイ用の車(手作り)など



0:00

《導入》指導員の挨拶・自己紹介。

《クイズと前回の復習》パワーポイントを使って。特に2年生、3年生は昨年度の復習も兼ねている。

- ①「あやしい人は見た目では判断したらダメですよ」
- ②「誘いの言葉、だまされてはダメですよ」
- ③「どこがあぶない？ 場所や時間。そのとき犯人の気持ちはね……」
- ④「帰り道、声をかけられたらどうしますか？」
- ⑤「ひとりにはならないで。帰りはみんなで帰りましょうね」

0:10

《展開・みんなでやってみよう》

各クラスの代表が出て、ロールプレイ。

①大きな声の出し方訓練

→「息を吸って、はき出すと同時に声を出そう！」

②あやしい車がやってきたときどうする？ ドアが開く車の作り物登場。

→「どのくらい相手から離れたらいいかな」子どもに手を広げさせて実際にやってみる。

→「後ろから車がやってきたときどうする？ いざというときどうする？」

0:30

《展開・クイズで考えよう》

パワーポイントを使って、遊びながら豆知識を紹介。

①「ナンバープレート覚えた？」ぱっと見てナンバープレートを暗記するゲーム。「ナンバープレートの話」4が並ぶプレートはないよ……など。

②「きょうは いかの おすし」知ってる？」

0:40

《まとめ》今日の学習のおさらいと、みんなで大きな声を出す練習。

0:45

終了



指導上のくふう・ポイント

今回指導を行った方は、元小学校の先生の経験がある方で、子どもたちを飽きさせず、しかもただ防犯の話だけでなく、豆知識のクイズの要素も入れながら楽しく学習していた。

前回の復習から入り、実践を入れたりクイズ形式を入れたり、常に子どもたちの声を多く聞きながら進めていたことが特徴。



着ぐるみで印象的に&ロールプレイを中心にした事例

(神奈川県内小学校)

対象: 1・2年生 約190名

指導: 神奈川県安全防災局 安全・安心まちづくり推進課 3名

使った教材や道具: 着ぐるみ(トラのはなちゃん)、

ロールプレイ用の車(手作り)など



0:00

《導入》指導者の挨拶。

「今日は、みんなの安全を守るお勉強をします」
着ぐるみ・トラのはなちゃんの紹介。「今日は、はなちゃんといっしょに、みんなでいろいろ考えようね」

0:05

《展開・今日のポイントの解説》

指導者がはなちゃんといっしょに「お出かけするときの4つのお約束」を解説。子どもたちと言葉のキャッチボールをしながら、楽しく進めていく。

- ① 出かけるときは「どこへ、だれと、時間(いつ帰るか)」を、家族にしっかり伝える／
- ② 一人で遊ばない／
- ③ 知らない人にはついていけない／
- ④ 大きな声を出して助けを求める。すぐ逃げる。

0:20

《展開・実際にやってみよう》

不審者に扮した指導者が登場、「4つのお約束」の内容を、はなちゃんとロールプレイ。

その後、代表の子ども数人がロールプレイ。

※車の中から声をかけられたときの距離の取り方・逃げる方向、防犯ブザーの使い方などもあわせて指導。

0:35

《展開・応用》

「留守番をするときは、どうする？」指導者・はなちゃんが子どもたちと言葉のキャッチボールをしながら解説。

- ・お家に帰って、鍵を開けるときはどうする？
- ・お家に入ってドアを閉めたら、鍵をかけることも忘れない。など

0:40

《まとめ》

今日学んだことのポイントを簡単におさらい。

指導者「今日はみんな、よくできたね。これからも、しっかり守っていきましょうね」

0:45

終了



指導上のくふう・ポイント

指導者が「トラのはなちゃんといっしょに考えようね。はなちゃんにいろいろ教えてあげてね」と伝えることで、子どもたちがはなちゃんの言葉や行動に注目し、はなちゃんを助けようと、自然と内容に集中していた。また、はなちゃんのロールプレイ終了後、指導者から「不審者(役)は、防犯の練習のために別の指導者が演じていたこと」を伝え、子どもたちを安心させた上で、実際のロールプレイに入る配慮があった。



映像教材で明解に&ロールプレイを中心にした事例

(神奈川県内小学校)

対象：5・6年生 約190名

指導：神奈川県安全防災局 安全・安心まちづくり推進課 2名

使った教材や道具：パワーポイント、ロールプレイ用の車(手作り)など



0:00

《導入》指導者の挨拶。

「今日学ぶことは、中学生になっても、大人になっても覚えておいてほしい大事なことです」

《犯罪や防犯についての情報》子どもをねらう事件について／行動範囲が広がることへの注意喚起／今まで習ってきたことのおさらいなど。

0:05

《展開・今日のポイントの解説》

①危険な場所を知る→近づかないことができる／②危険を感じる→気をつけることができる／③危険から逃げる→安全に過ごすことができる

0:10

《展開・映像教材を視聴》

パワーポイント「子ども防犯テキスト」(作成：警察庁)を視聴。クイズ形式の内容で、子どもたちに考えさせ、答えさせながら進める。
※携帯電話の話題にもふれる。

0:30

《展開・実際にやってみよう》

指導者の一人が不審者に扮し、代表の子ども数人がロールプレイ。

- ・だれかに声をかけられたらどうする？
- ・車に乗っている人から声をかけられたらどうする？

0:40

《まとめ》

「今日学んだことは、やがてみなさんが大人になって家庭を持ったら、今度はみなさんが自分の家族の安全を守るために、伝えていく大事なことです。しっかり覚えておきましょうね」

0:45

終了



指導上のくふう・ポイント

校長先生のはじめの挨拶、「身の安全を守るために、知っていることを、していることにかえましょう」が印象的だった。

また、指導者は導入・まとめで「身を守る・いのちを大切にすることは、自分の将来にとって、とても大事なこと」と、子どもたちに繰り返し伝えていた。防犯を自分の身に照らし合わせて考えさせる声かけのくふうが見られた。



※ p.8・p.9は、神奈川県内の同じ小学校での事例。低・中・高学年の3つに分かれ、それぞれ1授業時間ずつ防犯教室を開催。中学年(3・4年生)は高学年と同じような流れで、映像教材を視聴後にロールプレイ。

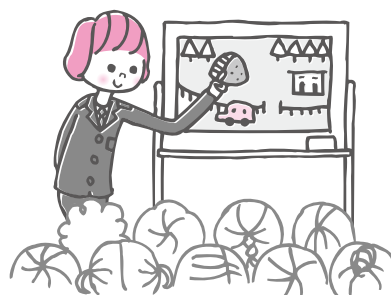
パネルを使用&全校で実施した事例

(岡山県内小学校)

対象: 1年～6年生 約50名

指導: 子どもの危険回避研究所 所長 1名

使った教材や道具: ホワイトボードを使うマグネット・パネル、
プリント、クイズなど



0:00

《導入》指導者の挨拶。

「今日は、自分の身をどうやって守ればいいのか、いっしょに考えましょう」

《最近“危ないな”と思ったことはないかな?》

最初は学年別に挙手させ、どこに何年生がいるか把握すると共に、手を挙げることに慣れさせる。最初の意見が出にくい場合、「交通事故にあいそうになったことはないかな?」と聞くと意見が出やすい。

身の回りには、犯罪、交通事故、事故、災害など危険なことがあることに気づかせる。それと共に、準備をしておけば危ない目にあいにくくなるから、いっしょに考えてみよう提案。



0:10

《展開・危険予測》《危険な場所って、どんな場所?》

事前に配布したプリントの道路図(p.33参照)を見せながら、「この道では、どこにどんな危ないことが起きそうかな?」と問いかけ、意見交換をする。挙手した子にマイクを向けて話を聞きながら進める。危険な場所のポイントを見つけながら、防犯に注目を集めていく。

0:20

《展開・危険な場所の改善法を考える》《公園パネル・「クマちゃん探し」》

「危険度の高い公園」のパネルをホワイトボードに設置(p.34参照)。マグネット・シートでできたパーツ(大きな遊具、うっそうとした樹木、高い塀等)をめくって、隠れている6匹のクマを探す。「どこにクマが隠れているかな? 探してみたい人」と子どもたちに呼びかけて、順番に出てきてもらい、めくりながら、どういう場所だったか確認。(この回では、低学年、中学年、高学年と分けて2人ずつで作業。高学年の場合、危険なポイントについてどういう場所なのかを確認する)



0:40

《展開・クイズで防犯の重要ポイントと盲点を説明》

防犯クイズの用紙を見ながら質問。YESだと思う人はパーで手をあげ、NOの人はグーで手をあげるようにさせる。(全員が手をあげることになる)



0:50

《展開・いざというときの逃げ方》

みんなで体を動かして元気を出す。手をつかまれた時のはい方と、後ろから抱きつかれた際の逃げ方を練習。

0:55

《まとめ》全体のおさらいをする。

指導者「今日、みんなで学んだことは、とても大切なことです。後でプリントでもう一度復習して、しっかり身につけましょうね」

0:60

終了

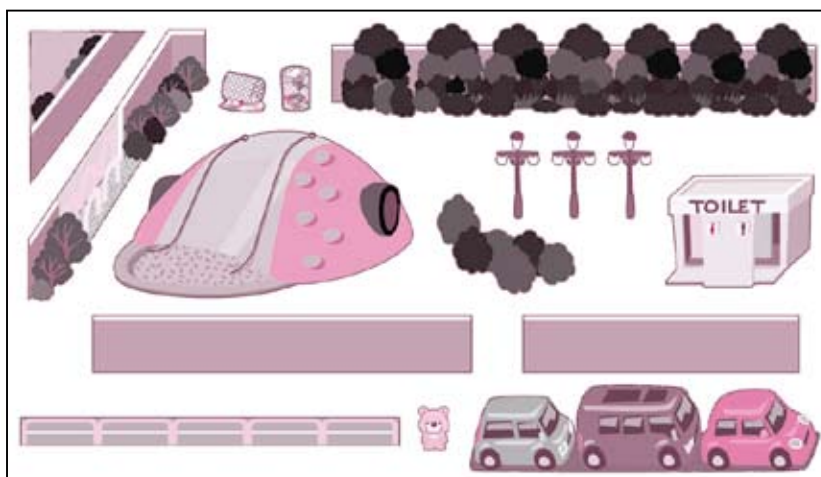
〈公園パネル・「クマちゃん探し」〉

〈ベース〉と〈パーツ〉を使い、「危険度の高い公園」のパネルを作る。(第3章 p34～35を参照)



〈ベース〉

…基本になるイラスト。
見通しの良い公園。



〈パーツ〉

…切り分けて、
〈ベース〉上に貼りつけて使う。

指導上のくふう・ポイント

全校児童対象の場合、低学年がわかりやすいところから入り、中学年レベルに合わせて指導。しかし想像以上に子どもの能力は高いので、低学年も十分ついてきていた。高学年には、インタビューをする際に、「小さい子に教えるときにはどういう教え方をしたらいいかな」などと、少し突っ込んだことを補足して聞くと関心を持続しやすい。

この学校では、警察署生活安全課と連携して、日ごろから防犯指導、地域安全マップ指導をしており、スムーズに進めることができた。しかし、話の中で「写真を撮らせてくれたら千円あげると言ったら行く人」と子どもに聞くと、5名が挙手したことにはショックを受けていた。ふだん「おかしやゲームをあげると言われてもついていけないこと」と指導しており、しっかり身につけていると思っていたという話だった。繰り返し教えていくことが大切だが、少し目先を変えた話や質問にすると良いということだろう。



※コメント
子どもの危険回避研究所
横矢真理

学校側からは、パネルを使ったプログラムやクイズなど様々な作業があったので、1時間という長時間なのに子どもの興味が途切れなかったことに感心された。しかし、可能であれば本来の授業時間45分範囲内で、数回に分けて実施したいところ。

子どもたちからは、後に「危ない場所がわかるようになってうれしい」ということや、「クラスに戻って先生と復習した」という手紙が届いた。事後のきめ細かい指導が、子どもたちの能力を定着させることにつながる。